



福岡肥料會社規則

4414

414
A1105



福岡肥料會社創立大意

農産ノ肥料ニ於ル猶木嬰兒ノ乳ニ於ルカ如シ古来未タ乳

無クシテ健全ノ嬰兒ヲ得肥料無クシテ農産ノ繁殖スルヲ

聞カサルナリ我國天賦ノ沃土ナリト雖モ耕耘培養ノ道未

タ全則ニ普カラス或ハ膏肥ノ土壤ヲ類シテ肥料ノ培養ヲ

事トセス亦ハ造化ノ天工ニ放任シテ收穫ノ増殖ヲ務メス

因襲ノ久レタ農業者ニ種ニ分レ曰ク單純耕耘曰ク肥料

培養ト而テ肥料ノ効能壹ニ一年ノ生産ヲ増加スル而已ナ

ラ人自然ニ地質ヲ変化シテ肥沃ナラシムルノ羨果ハ特ニ富

農ノ業ト見做レ貧農ニ至リテハ全ク其施用ヲ断念スルニ

至リレハ是職トシテ久シク武門政治ノ下ニ若シ肥料購求

ノ資力ニ乏シキニ由ルモノナリ大政維新地祖減額ノ恩澤

ニ浴シ昔日ノ艱苦ハ今日ノ蔓切ノ如ク之ヲ舊祖ニ比較セ

大正十一年四月
隈侯爵邸贈

ハ霄壤モ嘗ナラナルナリ此時ニ及ニテ農民タルモ、斷然
覺悟スル所有り、固ク因襲ノ弊ヲ脱去シ、廣ク經濟ノ法ヲ講
究ス可シ、然ルニ在昔、教年ヲ經過シ、奮發銳進ノ夢ヲウサル
所以ノモノハ、何ソマ、瘠中餘裕ノ收獲アリ、雖モ米穀賣却
肥料購求ノ道ニ時々殊ニ農業ノ宿弊タル自家ノ産出品ニ
シテ愛惜ノ念最モ深シ、之レロカ、為メ治然タル山荒豫備ヲ設
クル能ハス吾輩中ニ推積シテ年々凶害ニ幾分ヲ減少セラ
レルモ容易ニ變換ノ念ヲ起ス莫シ、是レ方法ヲ知ラサルノ
致ス處ナリ、夫レ現今地租ノ税額タル之ヲ海外各國ノ制度
ニ比較スレハ、未ダ薄税ト云フ可カラズ、試ニ我政府ノ歳入
先ニ地方税ヲ概算スルニ、十ノ七八ハ農民ノ上納スル所ニ
シテ、實ニ國家重大ノ義務ヲ負擔シタリ、而テ其景況却テ之
カ食客タル如キ工商輩ニ制取セラレ、姿アル所以ハ畢

竟農民タルモノ、固進ノ風潮ニ從フ、能ハスレテ依然舊習
ニ安スルノ招ク所ナリ、豈慨歎ニ堪ニ可ケンマ、吾輩多年無
心苦慮漸ク此ノ宿病ヲ醫治スルノ方法ヲ發見シ、肥料會社
ヲ創立シタリ、蓋シ會社ノ基本タル一般ノ會社ト其法ヲ殊
ニシ、米穀ヲ以テ資本トシ、需用者ヲ以テ株主タラシムルノ
組織ナリ、而テ其組織タルマ、農家徒ニ貯蓄スル所ノ米穀ヲ
此ニ移シ、之ヲ以テ北海道ヲ初メ各地ノ肥料ト交換シ、資本
ヲ適宜ニ運轉流通セシメ、理賤ノ治用ヲ施スニ、アリ、是ニ由
リテ因襲ノ弊ヲ去リ、改良ノ端ニ就キ、一ハ凶荒豫備ニ、氣ヲ
一ハ自家福祉ヲ増進シ、以テ聊カ國家經濟ノ一端ヲ裨助セ
ントス、善又米穀ヲ基本トシ、會社ヲ組織スルハ、太々近ナリ
ト言ハシク、諺ニ曰ク、能ク歩スルモノハ、其始ヲ急ニセスレ
テ、終ニ倦困ヲ来サスト、其レ此ノ會社ノ謂也。

茲ニ肥料會社ヲ創立スル為メ株主一ヨリ協議ノ上其規則ヲ
確定スル處ノ條々尤ノ如シ

第一條

一 當會社ノ名称ハ福岡肥料會社ト稱スヘシ

第二條

一 當會社ノ本店ハ筑前國那珂郡埴妻屋町ニ十七番地ニ
設置ス分社又ハ出張所ノ如キハ需用者ノ便宜ニ因リ之
レヲ設立スル者トス

第三條

一 當會社ハ有限ニシテ資本壹萬石ヲ以テ資本トシ其年限
ヲ滿十年ト定ム

第四條

一 此株數ヲ四千株トシ其五百ヲ以テ亮ト梅ト定ム

第五條

一 當會社ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニラモ之ヲ
執持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬籍職務アル
ニ拘ラス渾テ其所持高相當ノ權利ヲ有シ會社營業ニ就
テノ損益ニ應シ之ヲ負擔スル者トス

第六條

一 當會社ノ株主ハ其加入シタル株式壹個ニ付株券狀壹通宛
テ領受スル者トス

第七條

一 當會社ノ株主ハ株券狀ヲ讓與賣買スルトキハ双方調印シ
タル届書ニ証人相互株券狀ヲ券面ノ名前換テ本社ニ届
出ツ可シ

第八條

一 当會社、持券ヲ質入又ハ書入勝手タリト雖モ持券状ノ書換ラ成サ、ル時ハ其純益并分配ハ券面名前入ニ配当スル者トス

第九條

一 当會社ノ資本并是ニ營業年限共常式會亦ハ臨時會ニ於テ持主惣會ノ上過半数ノ決議ヲ以テ之ヲ増減伸縮スルヲ得ル者トス

第十條

一 当會社、持主タル者本社ノ帳簿ヲ點檢セシムル欲スル時ハ何時ニテモ閲覧スルヲ得ヘレ但レ營業中ハ此限ニ非ズ

第十一條

一 当會社、重役タルヘキ者ハ株數十株以上所有スル株主ノ内

ヨリ六人以上ヲ撰挙スヘシ拾株以上所有セサル者ハ其重役タルヲ得ス

第十二條

一 当會社ノ重役ハ同僚衆議ヲ以テ其中ヨリ一名ヲ撰ビ之レヲ社長トス亦一名ヲ副社長ニ撰ビ而レテ致リテ以テ取締役トス社長副社長并ニ取締役ノ在職年限ハ滿一ケ年トシ毎年一月株主惣會ニ於テ之ヲ撰挙ス然レモ其半数ハ抽籤ヲ以テ交代シ其半数ヲ滿ニケ年トス其撰挙ノ場合ニ至リ前任ノ者ヲ再撰ムルモ妨ケナシトス但レ副社長ハ社長々席スル時其事務ノ代理スル迄ニテ平日ハ取締役タルヘシ

第十三條

一 社長取締役等ハ當會社ニ緊要ナル申合規則ヲ規定スル

、權アハレ

第十四條

一 當會社ノ社長取締役等ハ事務取扱ヘキ支配人等提出納倉庫係リ等ノ請從復テ撰任シ其後復等ノ給料ヲ取極メ同僚衆議ヲ經テ進退黜陟スルノ權アリ

第十五條

一 當會社ノ社長取締役等ハ其事項適當ナリト思考スル時ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得ヘシ

第十六條

一 當會社ノ總會ハ一ケ年一度ト定メ毎年一月十五日ヨリ三十日迄社長取締役ノ定ムル場所ニ於テ開會ス之レヲ常式會ト稱シ其他ノ會議總テ臨時會ト稱ヘシ

第十七條

一 當會社ノ常式臨時會トモ(利益分配ノ外)株高過半数ニ滿タサレバ會議ヲ開クヲ得ス

第十八條

一 當會社ノ復投票及ヒ其他ノ會議ニ於テ一ト株ヲ各個トシ其株数高ノ多数ヲ以テ之ヲ決定スル者トス

第十九條

一 凡惣會ヲ開クハ少クとも十五日已前ニ於テ之ヲ惣株主ニ通知スヘシ而シテ其半数ヲ成セシムル株主ノ内警報告書ヲ受承セサル者アルモ此惣會ノ手續ニ於テ已ニ存セシモノトス

但シ右報告ノ手續ハ之レヲ直達スルカ郵便又ハ其他ノ手續ヲ以テスルモ渾テ會社ノ便宜ニ任スヘシ

第二十條

一 持主ノ内切弱其他事故アルニ於テハ代人勝テタルヘシ
ト至ニ當會社持主中ノ者ニ限り之ニ委任状ヲ与エ以テ之
レヲ指出スヘシ若代人ヲ指出サルカ又ハ決議ノ後採會
スル者マハトモ其決議ノ事件ニ付一切異議申立テ得
ス

第二十一條

一 凡惣會ノ議長ハ社長副社長ヲ以テ之ニ充ツ若事故アリ
テ欠席スル時ハ取締役ノ内ヨリ一人ヲ撰ビ之ヲ議長ト
スヘシ

第二十二條

一 當會社ハ持主ノ中田町丁歩以上ノ自作者ヲ各所ニ撰
ミ之ヲ肥料實驗委員ト定メ教授ノ肥料ヲ各地ニ經驗
シ毎年三月七月十月一々年三回ト定メ此ノ委員ヲ本社ニ招
集シ各自實際ニ培養施行セシテ所ノ利害得失ヲ講明セシ
メ以テ廣ク之ヲ公衆ニ報告スル者トス

但レ實驗報告ノ為メ年々本社ハ無利息ヲ以テ數
種ノ肥料ヲ貸與スル者トス

重役六人

内

社長一人

副社長一人

ノ

支配人貳人

書記方一人

出納方一人

斗筭方一人

倉庫方貳人

簿記方貳人

等外給任小使等ハ此限ニ非ス重役適宜之ヲ任用スル者トス

第二十四條

一社長取締役タル者ハ會社營業ノ全體ニ注意シ一切ノ事務ヲ處分シ渾テ其責ニ任スヘシ然レモ新ニ一事項興シ又ハ之レヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ビ定規ナキ出納其他ノ事項處分スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ之レヲ施行スルヲ得ス

第二十五條

一支配人以下ノ役員ハ社長取締役ノ指圖ヲ受各自ノ事務ヲ擔當シ社長ニ對シ之ヲ調理スル責ニ任スヘシ

第二十六條

一當會社ノ營業取扱時間ハ大衆日亦ハ臨時休日ヲ除クノ外毎日々ノ出ヨリ日没二時間前迄トス

第二十七條

一社長及ビ取締役ノ表議ヲ以テ當會社ニ於テ用ユル處ノ本社ノ印章ハ則テ之ノ如シ 印章雖形略ス

第二十八條

一當會社ノ印章更正スル故亦ハ新々ニ之レヲ増印スル等ノ事アリ時其時々政府ニ届出人民一般ニ新聞紙及ビ其他ノ手續ヲ以テ之レヲ廣告スルモノトス

第二十九條

一當會社ノ高票ハ總テ高品其他トモ此ノ印ヲ附シ之レヲ用ユル者トス則テ之ノ如シ 高票雖形略ス

第三十條

一總テ當會社ノ分量ハ西洋秤ヲ用ユル者トス

第三十一條

一 当會社ハ肥物ノ產地又ハ便宜ノ場所ニ於テ精良廉價ニ
レテ其地質ニ適應セル品ヲ撰ミ之ヲ買入亦ハ資本米ト
交換スル者トス

第三十二條

一 当會社ハ務メテ肥料ヲ廉價ニシ需用者ノ望ニ應レ米穀
ト交換貸付亦ハ賣却スルヲ以テ本旨トス

第三十三條

一 当會社ハ毎年運轉スル處ノ基本米ヲ以テ大坂及テ其他
ノ土地ニ運搬シ肥料ト交換ノ結約スルヲ本旨トスト至
モ若又仕入ノ都合ニ依リ札幌及ヒ其他ノ手續ヲ以テ之
ヲ賣却スル者トス

第三十四條

一 此基本米ハ其仕入ノ都合ニ因リ賣却スル事アリト至モ

肥料仕入ノ外他ニ之レヲ支用スルヲ許カス

第三十五條

一 此基本米ハ肥料買入ノ為メ一時之ヲ抱當トシテ而シテ
台賣却スルモ妨ケナキ者トス

第三十六條

一 当會社ノ肥料ヲ購求セント欲スル人ハ交換備入トモ凡
共需用高務ノ會社ニ申入ルヘシ

但レ田肥ハ一月二月限り麥菜種既レハ六月七月
限りニ申入ルモノトス

第三十七條

一 当會社ノ肥料ヲ貸附又ハ現品交換或ハ前約付テ手續ハ
米五石未満ヲ望ム人ニ限り其町村會議負若シムハ町村
協議ヲ以テ肥料貸付ヲ從テ本社ト結約スル者トス

第三十八條

一 當會社ト需用者ノ取引ハ其便宜ヲ謀リ渾テ手形ヲ以テ受渡ヲ成ス者トス

但シ交換手形作り及口會社迄ノ運送費ハ需用者ノ負擔タルヘシ

第三十九條

一 此手形ノ決算ハ本社ト需用者トノ間ニ豫テ設ケタル通イ帳ヲ以テ造拂ヒヲ成スモノトス

第四十條

一 此手形ノ取扱方ハ豫テ需用者ト結約シタル肥料ト引換ル為メノ手形ヲレハ會社ハ之ヲ受取証書ト首做シ後証ノ為メ之ヲ保存スル者トス 手形雖形畧ス

第四十一條

一 當會社ノ肥料貸附交換手トモ其受取方ハ第四十條ノ規定

第四十二條

一 肥料交換手ハ需用者農時ノ都合ヲ以テ其結約已前トモ當會社ニ受取置クコトアルヘシ

但シ賦數升尺等ハ其時々契約スル者トス

第四十三條

一 當會社ノ貸附交換手ヲ本社ニ分社ニ於テ賣捌キノ場合ニ至リ買受人ノ都合ニ因リ會社ノ預リ證券ヲ望ム時ハ賦數升尺等ノ契約ヲナシ其倉庫ノ番記号ヲ附シタル預リ証書ヲ渡ス事アルヘシ

第四十四條

一 當會社ノ貸附方ハ其時ノ相場ヲ以テ肥料何程ニ付米何程ト定メ此利息ハ成丈ノ修價ニ結約シ其期限ニ定ムルハ必ス現米ヲ以テ元利返濟スル者トス

但シ此米ニハ住所姓名ヲ記載シタル印札並ニ押札等

第三十八條

一 當會社ト需用者ノ取引ハ其便宜ヲ謀リ渾テ手形ヲ以テ受渡ヲ成ス者トス

但シ交換手依作り及ヒ會社迄ノ運送費ハ需用者ノ負擔スルヘシ

第三十九條

一 此手形ノ決算ハ本社ト需用者トノ間ニ豫テ設ケルニ由イ帳ヲ以テ受拂ヒテ成スモノトス

第四十條

一 此手形ノ取扱方ハ豫テ需用者ト結約シタレ肥料ト引換ル為メノ手形ナレハ會社ハ之ヲ受取証書ト首做シ後証ノ為メ之ヲ保存スル者トス 手形雖形畧ス

第四十一條

一 當會社ノ肥料貸附交換手トモ其受取方ハ第四十條ノ様

ノ手續タルヘス者トス

第四十二條

一 肥料交換代米ハ需用者農時ノ都合ヲ以テ其結約已前ト由モ當會社ニ受取置クナラルヘシ

但シ賦數升尺等ハ其時々契約スル者トス

第四十三條

一 當會社ノ貸附交換米ヲ本社並ニ分社ニ於テ賣捌キノ場合ニ至リ買受人ノ都合ニ因リ會社ノ預リ證券ヲ望ム時ハ賦數升尺等ノ契約ヲナシ其倉庫ノ番記号ヲ附シタル預リ証書ヲ渡ス事アルヘシ

第四十四條

一 當會社ノ貸附方ハ其時ノ相場ヲ以テ肥料何程ニ付米何程ト定メ此利息ハ成丈ノ修價ニ結約シ其期限ニ定レハ必ス現米ヲ以テ元利返濟スル者トス

但シ此米ニハ住所姓名ヲ記載シタル印札並ニ捺札等

ヲ用後日ノ証トス

第四十五條

一此貸附返済期限ハ其實附タル月ヨリ遅クトモ十日ヲ起
過セタル者トス

第四十六條

一此貸附ノ抵當品ハ確實ナル不動産ヲ書入ル、者トス

第四十七條

一當會社ノ株主ニシテ貸付ヲ望ム人ハ會社ノ株券ヲ抵當
品ニ指入ル、モ妨ケナシトス

但シ會社ノ役員ニ限リ之レヲ禁ス

第四十八條

一此貸附取立米ハ米品ノ良否ヲ検査シ其實ノ粗悪ナル時
ハ之レヲ受取ラサル者トス

第四十九條

一當會社ノ決算ハ一々年一度トシ毎年十二月三十日ヲ限リト
定メ社長取締役ハ年中ノ出納明細書ヲ製シ之ヲ惣會
於テ株主一ヨリ報告スヘシ

第五十條

一當會社ノ重役ハ一々年間會社ノ惣勘定ヲナシ其惣益米ノ
内ヨリ諸雜費并ニ損失補償ノ米額及ヒ滞賃米ヲ引去リ
其餘ヲ以テ純益米ト成シ亦此内ヨリ次條ニ規定セル積米
并ニ役員賞與米トシテ純益高ノ十分ノ一ヲ引去リ其餘
ノ米額ヲ以テ惣株主へ分配スヘシ

第五十一條

一當會社ハ資本額十分ノ一以上ヲ引分チ之ヲ積米ト成シ以
テ非常ノ豫備ニ供スル者トス

第五十二條

一 當會社ノ諸規則ハ實際施行ノ上會社ノ便宜ニ因リテハ
更正加條スルコトヲ得ヘシ

右條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定メ其証トシテ一日姓名ヲ記
シ調印スル者也

發起人

福岡縣筑前國粕屋郡

戸原村總代	長 甚六	日村總代	長 九三郎	江村總代	松永和助	日村總代	岡 三六
仲原村總代	吉原伊平	日村總代	安河内次作	別府村總代	立花三郎	日村總代	藤 亦吉
阿惠村總代	安河内甚尾	日村總代	藤野又作	酒殿村總代	安河内之助	日村總代	池見茂吉
丹橋村總代	藤 次助	日村總代	茂尾忠六	新嘉原村總代	上野丈三郎	日村總代	石川和助
原町村總代	山田茂三郎	日村總代	山田徳次郎	大隈村總代	八尋徳吉門	日村總代	八尋伊三郎
南里村總代	稻永勝太郎	日村總代	稻永庄右門	柳井村總代	藤 善吉	日村總代	藤 善三

箱崎村 董 董 磯 夫 日村 黒木 大 市 戸原村 長 三 九 郎 日村 長 五 郎

久原村 山路 圓 山田村 國 芳 三 平 仲原村 箱 田 三 三 酒殿村 原 田 三 郎

戸美村 小林 作 五 郎 上須 惠 村 田 原 養 全 日村 田 原 精 一 百 賀 村 長 崎 昌 若

藤 栗 村 藤 全 作 大 三 輪 長 兵 衛



